

用は、最少額猶ほ約銀三百兩を要すと。毎年喀什噶爾より、露境に入りメツカに參詣する者約二萬人に及ぶと云ふ。露國領事は、彼等に旅行券を發給するに當り、一人毎に銀壹兩半の手數料を拂はしむると。

又纏頭は、一日五拜、即ち天明に四叩頭、正午十叩頭、三時五叩頭、日没九叩頭、八時又九叩頭を爲し。七日に一市、市日には身を清水に清め、正午教會堂に上り、十八叩頭を爲すと。神を敬するも好し、幸を祈るも好し、而も夫れ何ぞ多忙なるや。

纏頭回は概ね温順にして、氣慨に乏し。隨て御し易き可憐の民族たり。然るに彼等は、古來屢、判亂し、新疆又は伊犁の名を聞けば、直に回亂を聯想せしむ。是れ抑も何が故に然るか、左に少しく説述せん。

彼等の信ずる回教は、宗祖マホメツト以來、劍を以て布教を圖り、血を以て目的を達しぬ。彼等唯一の寶典たる哥蘭經コーランには、明かに戰爭主義を鼓吹し在り。故に彼等に多少遺傳的殺伐の氣象あるは、數の免れざる所なれば、往時或は不穩の人民なりしやも亦知るべからず。然れども近古以來回亂の原因を探究するに、全く清官の收歛誅求飽く無き強制に堪へずして、空しく手を束ねて餓死せんよりは、寧ろ恨